

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 12 月 17 日

【評価実施概要】

事業所番号	4071200556		
法人名	医療法人 日の出会		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	福岡市西区野方1丁目16-28 〒819-0043 (電話) 092-812-5032		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年12月17日	評価確定日	平成20年1月23日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の高齢者をサポートしていきたいとの思いのもとに長年にわたり地域医療に携わってきた病院が、以前は入院病棟であった2階部分を改修して開設されたホームである。建物管理者は、在宅系介護サービスを長年経験しており、入居者の生活歴や身体状況を把握し、入居者一人ひとりを尊重した対応や言葉かけが行われており、そんらしい生活が支援されている。入居者の表情もおだやかでその表情からは、自由に安心して生活していることが伺える。もともと地域に根ざしている法人が開設しているため、地域コーラスボランティアを始め、地域の夏祭りや文化祭への参加、交流が進められている。現在取り組まれている地域との小さな交流をこれからも続けられ、少しずつ地域交流の輪を広げていくことを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価を受け、家族及び運営推進会議時に報告を行い、職員へはミーティング時に報告し、提案事項は職員全員へ提示しての協議が行われている。家族全員へのアンケート実施や成年後見制度の活用への支援などの改善の評価が見られ、サービスの質の向上に生かす取組みがある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価を受けるにあたり、職員全員で自己評価の確認を行うなどの取組みがある。今回、外部評価を見直すことで、日常業務の見直しや質の向上に向けての今後の課題等、職員への気づきを生み出す結果につながっている。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 民生委員、自治会長、自治会副会長の参加による運営推進会議が、平成19年1月より、今までに2回のみ開催である。また、運営推進会議への行政担当者や地域包括支援センター職員への声かけは行っているが参加に至っておらず、まずは広く地域や行政に運営推進会議への参加を呼びかけ、運営推進会議を活用した質の向上への取組みを期待します。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の面会時の声かけや毎月の「ホーム便り」を通して、現在の状況やホーム行事の案内を行うなどの働きかけがある。また、家族会などを利用して家族の意見や思いの表出に努め、家族全員へのアンケート実施を通じて要望や意見が出るなど、質の向上に向けた取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域サロンや公民館の催しなど地域活動への参加、また、自治会の夏祭りや小学校の運動会への参加、地域コーラスなどのボランティアの方々の来訪など、地域交流への取組みがある。

【情報提供票より】(平成 19 年 12 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 1 月 1 日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人	
職員数	7 人 常勤	5 人 非常勤	2 人	常勤換算 5.3 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000-25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(家賃の3ヶ月分)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日あたり 円程度			

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

登録人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	5 名				
要支援1	名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低	66 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	タケシマ整形外科医院/福岡原リハビリテーション病院/前田歯科医院
---------	----------------------------------

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念であるが、グループホームが 地域密着型サービスに位置付けられたことに伴い、 既存の理念を基に職員全員で話し合い、地域との関 係作りを意識しながら業務に携わっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	理念の事務所への掲示、毎月のミーティングや日常 のケアの場面を通じて気づいたことを職員間で話し合 うなど、理念を確認しあう取組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	地域サロンや公民館の催しなど地域活動への参 加、自治会の夏祭りや小学校の運動会見学、地域 コーラスなどのボランティアの方々の来訪など、地域 との交流を図る取組みがある。また、文房具の買い物 などは地域小売店を利用しており、自然な形で地 域交流への取組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	スタッフミーティング時に外部評価の意義を説明し、 全職員にて外部評価内容を確認するなどの取組みが ある。前回の外部評価を受けて、ホーム入り口への 分かりやすい工夫や家族へのアンケートの実施など の成果が見られる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、自治会副会長、民生委員の参加による運営推進会議が今までに2回開催されている。また、地域包括支援センターや市の担当職員や家族に声かけを行っているが、参加に至っていない。		まずは、広く地域や行政に運営推進会議への参加を呼びかけ、事業所が抱える課題への意見交換等、今後も運営推進会議へ継続的に取り組み、地域や行政との連携のために運営推進会議を活用した質の向上への取り組みを期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	研修参加等の機会を利用して、ホーム運営上の質問等を行政担当者へ行き、助言を受けるなど、行政との連携が図られ、質の向上に取り組む姿勢がある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ミーティングで勉強会を開くなど、職員の制度への理解を図る取り組みがある。家族や本人へは、家族会等で家族全員へ資料を配布し、具体的な利用手順や連絡先などの説明を行っており、実際に制度を活用した取り組み事例がある。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時の声かけ、毎月のホーム便りを利用した入居者ごとの個別状況のお知らせやホーム行事等の案内を行うなどの取り組みがある。また、行事ごとの家族会などを利用して入居者の様子などを報告している。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時の声かけ、家族会を活用した働きかけなど、家族の意見や思いの表出に努めている。また、家族全員へのアンケート実施を通じて要望や意見が出るなど、質の向上に向けた取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入ってくる際は、入居者一人ひとりに応じて徐々に説明するなど、入居者の環境や感情への影響がないように配慮し、自然な形で入居者と職員との関係が作り出されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用に関して年齢や性別などによる制限は、何ら行われていない。職員は料理やレクリエーション等の得意分野での能力を發揮できる体制にあり、資格取得を目指す職員への支援体制がある。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人全体で、人権に関する勉強会を開催するなど、人権教育や啓発活動への取り組みがある。</p>		
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修の案内を回覧して研修参加を募ったり、研修内容や職員の経験や能力などを加味した上で外部研修参加を促すなどの取り組みがある。受講報告書を回覧したり、月に1度のミーティングで報告を行い、知識の共有に努めている。</p>		
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の介護事業者合同での勉強会への参加や同業者との研修への参加、他のグループホームへの見学、情報交換や交流などが行われている。</p>		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学から始まり、体験入居などを通じて馴染みの関係作りへ取り組んでいる。入居直後の利用者に対しては、職員が他の入居者とのあいだをとりもつなど、安心な生活を得るための配慮がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から、昔話を通じての人生経験や個々の入居者の生き様などを知り、日々のかかわりの中で、学び支えあう関係を築いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の面会時や家族会などを通じ、家族の意向などの把握に努めている。入居者の動作やしぐさ等から思いや意向を汲み取り、介護計画書に反映する取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日常のかかわりの中で、入居者及び家族の意向や思いの把握に努めている。担当職員で原案を作成し、ミーティング時に職員全体で検討し、計画作成担当者が総合的な方針や具体的な支援の方法等を確認するなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	3ヶ月に1回、プランの内容についての検討、評価を 行い、その都度、状況変化に合わせての評価と見直 し、再作成が行われている。また、6ヶ月に1回、入居 者、家族の意向や希望の確認を行い、プランの見直 しや再作成を行うなどの取り組みがある。		状況の変化のあるなしに関わらず、チームケアの 視点から月に1度のカンファレンスにおいて、全ての 職員の気づきを取りまとめ、入居者の現状把握と現 状に即したサービス計画書の作成への取り組みを期 待します。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	かかりつけ医の受診介助や入居時に家族に代わっ て着替えを届けるなど、本人、家族の状況に応じて柔 軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	主治医については、契約時に本人、家族の意向を 聞き、個別のかかりつけ医への受診又は、ホーム協 力病院の往診ができるように支援している。かかりつ け医への家族対応が困難な場合は、ホームにて支援 する取り組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取りに関する指針を文章化したものを用 いて説明を行うなどの対応がある。また、状態の変化 に伴いホームでのターミナルを希望する家族に対し て、主治医を交えての事業所としての可能なケアにつ いて説明を行い、同意を得るなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	ミーティングや日常のかかわりの中で、言葉遣いや 対応など入居者のプライバシーへの配慮の徹底が図 られていて、入居者への丁寧なゆっくりとした言葉遣 いや入居者一人ひとりを尊重した対応が見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日のスケジュールはある が、その時々本人の気持ちを尊重し、決して無理 強いせず、様子を見ながら、食事や入浴などの声掛 けを行っている。また、入居者のペースにあわせた対 応が見られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	野菜の皮むきやお茶パック詰め、テーブル拭き、洗 濯物たたみなど、入居者一人ひとりができる範囲で、 協力しながら食事の用意や準備を行っている。また、 入居者、職員共に食卓を囲み、会話を楽しみながら 食事を楽しめるような取り組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるよう に支援している	基本は、一日おきの入浴であり、入浴時間等の一応 の決まりはあるものの、入居者の希望にあわせて臨 機応変に対応している。入浴拒否される方には、無理 強いせず、入浴時間をずらしたり、お誘いの声掛けの 方法を工夫して、快く入浴していただけるように支援し ている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	日々の会話の中から、本人の興味や関心がある ことなどを聞きながら、その人に合った役割や楽しみご となどへの支援をしている。野菜の皮むきやお茶パッ ク詰め、洗濯物たたみなど入居者一人ひとりの力や 能力を生かすような取組みがある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常の散歩や法人内の施設の外庭にての日光浴、 近隣の宅の庭の見学、1～2ヶ月毎の計画立てた外 出やドライブ、地域活動への参加など、積極的に外出 する柔軟な支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されているが、職員の人員体制が 少ない時に玄関の出入り口の施錠が見られた。職員 は入居者の様子を良く観察しており、さりげない声か けと一緒に出かけるなどの対応がある。外出傾向の ある入居者の対応策、施錠することの弊害に対する 話し合い等は、これからの課題である。		鍵をかけることの弊害を全職員で話し合いながら、 認識し、外出携行の察知や職員間での見守りや役 割分担など、入居者の安全を確保しながら日中鍵を かけないで支援していく意識付けを徹底させて欲し い。
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回の消防署の指導による防災訓練などを通じて 具体的な指導を受けている。また、ホームに隣接する 系列施設や母体病院の応援体制があり、地域の消防 署や自治会への協力体制が得られるなどの取組み がある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	カロリーや栄養のバランスを考慮しながら、入居者と 相談の上で栄養士の資格のある職員が献立を作成し ている。利用者ごとの食事摂取量の把握を行い、入 居者の状況に合わせて水分摂取量をチェックし、水分 量の少ない入居者へは水分補給ゼリーなどを使用す るなど、きめ細やかな対応がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	動線に沿った家具の配置など、安全に配慮され、 ホームに流れる音楽の音量や、照明の明暗などが丁 度良く配慮されている。壁には装飾や外出先での写 真がさりげなく施されている。リビングは自然採光で、 椅子が準備され、入居者一人ひとりがゆっくりと居心 地良く過ごすための工夫がある。		大家族が住んでいる家としての空間を重視し、入居 者にとって馴染みの調度品等を取入れての配置や、 リビングや廊下などの季節に沿った装飾や掲示の工 夫を行うなど、生活感や季節感のあるものを上手く 活用して入居者の五感へ働きかける工夫を更に期 待したい。
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、家具や鏡台、仏壇、テレビなどの馴染み のものや装飾品のが持ち込まれており、安心して居 心地良く過ごすための居室作りの工夫や配慮が見ら れた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号